市民フォト

ふくしま夢通信

No.9・2012年 冬号

いまこそ強い意志で立ち上がる

いで湯の里 飯坂・土湯・高湯

自然に恵まれた福島市は、市街地から車で20～30分のところに「飯坂温泉」「土湯温泉」「高湯温泉」と、湯量豊富で泉質の異なる温泉地が3つもある「いで湯の里」です。白い湯煙が立ち込める冬の温泉は、疲れを癒やし英気を養う場所として、人々に愛されてきました。

そんな癒やしの地も、3・11の大地震で地面・建物ともに容赦なく揺さぶられました。しかし、温泉地の皆さんは力を合わせて復旧させ、※二次避難所として被災された方々を受け入れ支えました。

今、温泉の力こそ復興のエネルギーになると、英知を結集させてさまざまな取り組みが始まっています。今号では、力強い一歩を踏み出した3つの温泉地をご紹介します。

復興・再生に向け活動している土湯女将会の皆さん

災害のたびに見事に再生 不屈の精神で取り組む平成の復興

「災害に屈しない」住民の心に復興の土台がある土湯温泉

▲「訪ね見る誰もが憩う光るまち」をテーマに掲げ復興に取り組む土湯温泉

平成22年の国の直轄河川の水質調査で一級河川水質ランキング第1位に輝いた荒川の上流に位置する温泉郷。豊富な湯量と多彩な泉質が自慢の土湯温泉は、鳴子（なるこ）、遠刈田（とおがった）と並ぶ『東北三大こけし発祥の地』としても有名です。

「土湯の歴史は、決して順風満帆ではありません。荒川の氾濫や二度の大火など、度重なる災害に見舞われながら、そのたびに地域が一丸となって立ち上がり、復興してきたのです」と加藤勝一（かついち）さん（土湯温泉町復興再生協議会会長）。

今回の震災では建物の損壊などで22軒中5軒の旅館が廃業を余儀なくされたうえに、福島第一原子力発電所の事故による風評被害が重くのしかかりました。「先の見えない不安の中で、私たちに元気をくれたのは、二次避難で土湯温泉に来ていた子どもたちでした。温泉街で元気に遊ぶ声にどれだけ励まされたことか。その姿に昭和初期の大火で9割の家屋が焼失しても、苦難を力強く克服し、復興、再生を遂げてきた土湯の歴史が重なりました」

その後、加藤さんは震災後の土湯をなんとかしたいという地元の声を結集し、昨年10月に「土湯温泉町復興再生協議会」を立ち上げました。

集まったメンバーの多くは40年前、土湯温泉観光協会に青年部組織『あらふど（新足）の会』を作った時の仲間。当時、毎晩集まっては、土湯の将来を喧々諤々（けんけんがくがく）語り合ったそうです。

「新雪をかき分けて歩くことを地元の方言で『あらふど』といいます。我々が道をつけて後継者につなぐ。『再生の鍵は、自助、共助、公助』まずは、自分たちで復興のビジョンを描き連携を深めながら進めていこうと思いました。私たちのテーマは『訪ね見る誰もが憩う光るまち』です」

現在、加藤さんたちは、被災地の規制緩和など特例措置を盛り込んだ復興特区と、水力や地熱を利用した自然再生エネルギーを通じて、発電インフラを整備するという二つの柱を軸に、土湯温泉の再生と復興を目指しています。

市街地からの温泉

（※）二次避難所
仮設住宅に入居できるまでの間、一次避難所での厳しい生活環境を改善したり、集団感染を避けるため、行政が民間の宿泊施設（旅館、ホテルなど）を借り上げたり、公営住宅を提供しているもの

土湯温泉町復興再生協議会　会長
加藤　勝一さん

街を笑顔にした「湯けむりクエスト」次は真冬の花火で元気になる！

昨年10月30日、加藤さんたちの励ましの下、青年部が主催したイベントが、土湯温泉周辺の観光施設や温泉街を巡ってクイズに答えたり、宝物を探しながらゴールまでの時間を競い合う「湯けむりクエスト」でした。当日は、15組約50人が参加し、温泉街をダッシュで走ったり、大きな声で仲間を呼んだりして楽しく過しました。その後「荒川せせらぎロードゆ～ろ」で、地元の人たちとバーベキューで交流。会場には2,500個のボトル灯籠を並べ、参加者全員で土湯温泉の復興、福島の復興を願いながら火をともしました。

「あんなに気持ちが高揚したのは、震災以来初めて。温泉街に人と活気があふれて『やれる！』『土湯は負けない！』と思いました」と、陳野原亜紀さん（土湯温泉観光協会青年部・ひさごカフェ店主）。

そんな陳野原さんですが、震災直

▲会場となった新名所「荒川せせらぎロードゆ～ろ」に2,500個のボトル灯籠をともしました

▲ゆらゆらゆらめく小さな明かりを眺めていると、とても優しい気持ちになってきます

（上）町内に４カ所ある足湯（無料）。温かい温泉に足をつけてのんびりしていると体がぽかぽかしてきます

（中）名物を探しながら温泉街をぶらぶら。小腹がすいたら手作りこんにゃくの田楽で一休み

（下）整備を進めてきた荒川管理用通路「荒川せせらぎロードゆ～ろ」。清流沿いを散策できる

土湯温泉観光協会青年部
ひさごカフェ店主
陳野原　亜紀さん

後は体調を崩し約1カ月店を休みました。再開のきっかけになったのは、他でもない土湯温泉に二次避難されていた人の声。「このクレープ屋さん、いつになったらオープンするのかなあ」という声に、スイッチを入れてもらったのだそう。「食べたいと思ってくれている人がいる限り、やらなきゃと思いました。今は、好きな仕事ができることに感謝しながらクレープやお菓子を焼いています」。元「あらふど（新足）の会」のメンバーで、現在は土湯温泉町復興再生協議会で活躍する父の姿を見ている陳野原さんには、土湯のこれからについて、「私たちも！」という思いが強いと語ります。「次のイベントは、2月の恒例になりつつある真冬の花火です。白銀の世界で見る花火は、幻想的で冬の寒さも忘れてしまいます。ぜひお出掛けください」

春めいてきたら、つつじ山公園にも出掛けてほしいと陳野原さん。そこは、吾妻連峰の山懐に抱かれた女沼（めぬま）が見下ろせる絶好のビュースポット。「鏡のような静かな水面を見ていると抱えていた悩みもどんどん小さくなっていきますよ」。心に元気が欲しくなったら温泉と美しい景色に身を委ねてみてはいかがでしょう。

歴史を伝える石段や坂道を巡り訪ねたい早春のつるし雛（ひな）飾り

▲昨年の「旧堀切邸つるし雛飾り」。大正初期の七段飾りや内裏雛、晴れ着なども展示

▲新しく生まれ変わった共同浴場「波来湯」

▲温泉街には石段（ちゃんこちゃんこ）や坂道が数多くあります

飯坂婦人会　会長
二階堂　信子さん

坂道や石段、石垣などの風情を大切にしながら快適で安全なまち歩きができるにぎわいの街並みを創る。約10年の歳月をかけて市民との協働で取り組んできた都市再生整備事業が完成した飯坂温泉。自然石を用いた美しい街並みに、おととし5月には旧堀切邸が、昨年1月には共同浴場「波来湯（はこゆ）」がオープン。まさにこれからというときに大地震に見舞われました。

「飯坂温泉は被害が少なかったので、私たち飯坂婦人会はまず避難所の炊き出しに奔走し、その後、旅館に避難している皆さんとの交流会も開きました」と二階堂信子さん。

震災から9カ月。日常を取り戻した今、次の目標に向かって準備を進めている真っ最中。自分たちにできることとして昨年に引き続き、今年2月18日～3月3日に「旧堀切邸つるし雛飾り」を開催します。「昨年は10日間で約7千人の方がおみえになり、年月をしのばせるお屋敷に雛飾りが映えて、訪れた皆さんが『うわ～っ』と歓声を上げていかれました」。夢は、開催期間中、飯坂温泉全体をお雛さま一色にすること。

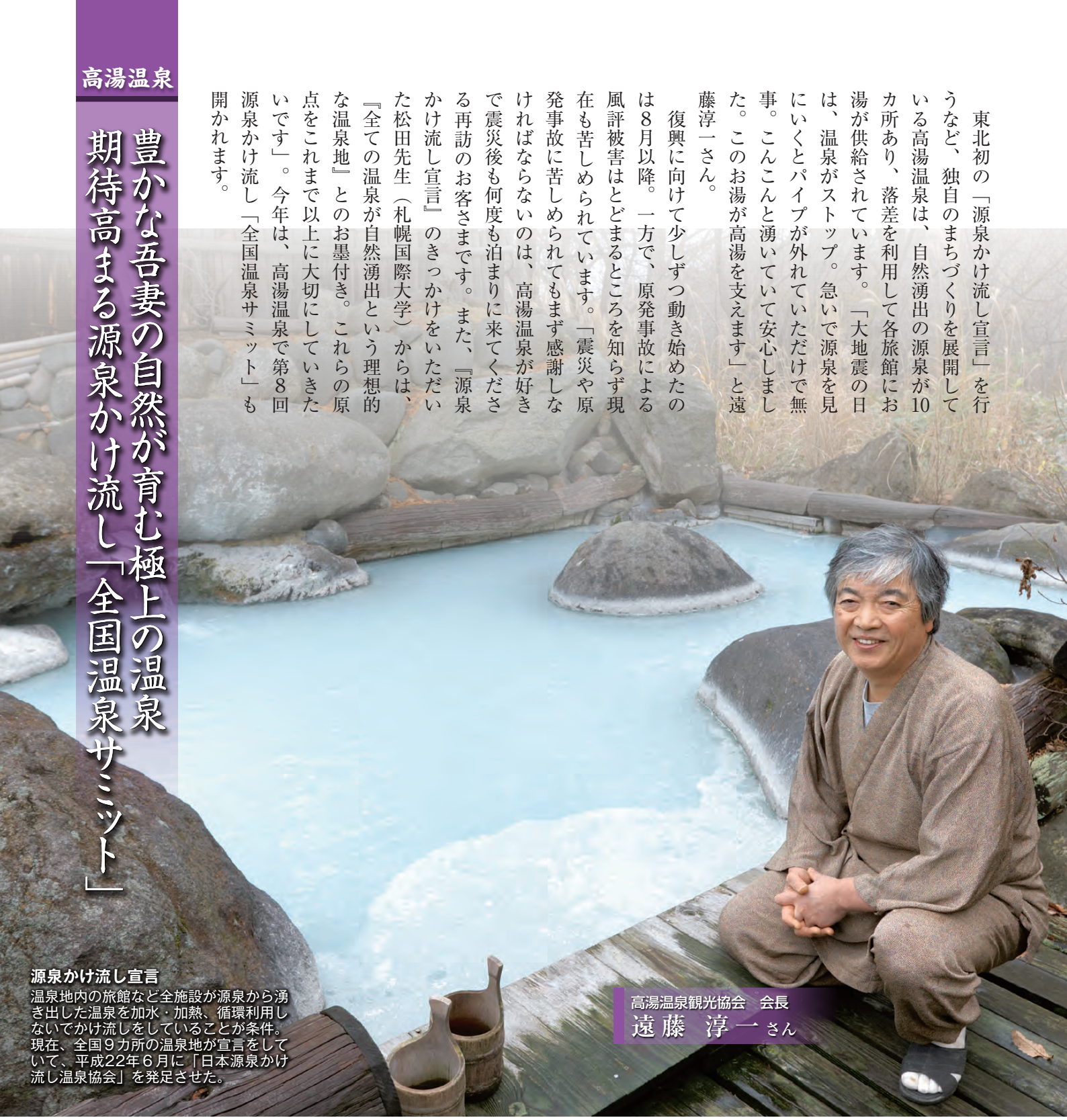
「飯坂には、歴史を伝える坂道や石段が数多くあり、石段のちゃんこちゃんこを下りて、各戸口に飾られているお雛さま巡りができたら素敵だろうな」

復興への祈りを込め鶴のつるし雛飾りを増やすなど、一層華やかに開催するそうです。

豊かな吾妻の自然が育む極上の温泉
期待高まる源泉かけ流し「全国温泉サミット」

東北初の「源泉かけ流し宣言」を行うなど、独自のまちづくりを展開している高湯温泉は、自然湧出の源泉が10カ所あり、落差を利用して各旅館にお湯が供給されています。「大地震の日は、温泉がストップ。急いで源泉を見にいくとパイプが外れていただけで無事。こんこんと湧いていて安心しました。このお湯が高湯を支えます」と遠藤淳一さん。

復興に向けて少しずつ動き始めたのは8月以降。一方で、原発事故による風評被害はとどまるところを知らず現在も苦しめられています。「震災や原発事故に苦しめられてもまず感謝しなければならないのは、高湯温泉が好きで震災後も何度も泊まりに来てくださる再訪のお客さまです。また、『源泉かけ流し宣言』のきっかけをいただいた松田先生（札幌国際大学）からは、『全ての温泉が自然湧出という理想的な温泉地』とのお墨付き。これらの原点をこれまで以上に大切にしていきたいです」。今年は、高湯温泉で第8回源泉かけ流し「全国温泉サミット」も開かれます。



高湯温泉観光協会　会長
遠藤　淳一さん

源泉かけ流し宣言
温泉地内の旅館など全施設が源泉から湧き出した温泉を加水・加熱、循環利用しないでかけ流しをしていることが条件。現在、全国９カ所の温泉地が宣言をしていて、平成22年６月に「日本源泉かけ流し温泉協会」を発足させた。

▲気軽に高湯の泉質を楽しめる「あったか温泉公園」

▲県内外から多くの人が訪れる、人気の高湯温泉共同浴場「あったか湯」

▲樋のふたを開閉したり、分湯箱で湯量を増やしたり絞ったりして温度を調節

全国初の面的除染

大波地区で本格除染スタート

全国で初の試みとなる地域単位の除染が始まりました。住宅や道路など生活空間全体を面的に除染することで、放射線量の低減を図ります。

除染作業には、全国から多くのボランティアの応援をいただき、落ち葉収集や、表土除去を終えた土地への客土などにご協力をいただいています。

また、委託した業者により住宅の屋根や雨どいの高圧洗浄、庭の土の剝ぎ取り作業や植木の剪定などを行っています。

今後、除染結果の検証を踏まえ、安全安心な生活を一日も早く取り戻すため、市内各地区で効率的に除染を進めていきます。

▲民家の除染作業

▲屋根などを高圧洗浄

▲全国から集まったボランティアの皆さん

ぜひお読みください

「福島市ふるさと除染計画」と「除染マニュアル」は、市役所本庁、各支所・出張所や市ホームページでご覧いただけます。

■除染に関する問い合わせ
放射線総合対策課
☎024-535-1136

■除染ボランティアに関する問い合わせ
市社会福祉協議会（生活復興支援室）
☎024-533-8881

あったか・湯ったり リフレッシュ事業

未就学児の心身の健康とリフレッシュを図り、放射線量の低い飯坂・土湯・高湯の三温泉地で家族一緒にのびのびと過ごすため、宿泊費の一部を助成します。

■対　　象／市内に住所を有する未就学児と同居の保護者および兄弟（保護者2人、兄弟は中学生まで）

■助成内容／市内の温泉宿泊費
1泊当たり 5千円／人、2泊が上限。利用は1回まで

■問い合わせ／観光課 ☎024-525-3722　※対象者には、ご案内を送ります。

■市内温泉地の環境放射能測定値（市測定）

測定場所	5月	11月
飯坂温泉（飯坂温泉駅前）	0.80（31日）	0.69（24日）
土湯温泉（支所）	0.18（30日）	0.17（25日）
高湯温泉（あったか湯）	0.16（31日）	0.13（24日）

※単位：マイクロシーベルト／時間、地上1mの測定値

CONTENTS

2 復興特集 いまこそ強い意志で立ち上がる ～いで湯の里、飯坂・土湯・高湯～

3 土湯温泉
災害のたびに見事に再生
不屈の精神で取り組む平成の復興

6 飯坂温泉
歴史を伝える石段や坂道を巡り
訪ねたい早春のつるし雛飾り

7 高湯温泉
豊かな吾妻の自然が育む極上の温泉
期待高まる源泉かけ流し「全国温泉サミット」

8 全国初の面的除染
大波地区で本格除染スタート

表紙紹介

「願いを込めて」
撮影地：土湯温泉

土湯温泉「湯けむりクエスト」で行われた復興灯籠。参加者が福島の復興を願い、手作りの灯籠へ復興のともしびを点火していった。

市民フォト・ふくしま夢通信
平成24年1月1日 発行　No.9　2012年 冬号
ホームページもご覧ください ▶ 福島市 検索 クリック

編集 発行
福島市役所 広報広聴課
〒960-8601 福島市五老内町3-1
☎024-525-3710　FAX.024-536-9828
E-mail : kouhou@mail.city.fukushima.fukushima.jp